

| | | | | | | |
|----------------------------|---|------------------------|------------------------|------------------------|--------------|--------------------|
| 研究代表者氏名 | 野村 靖幸 | | 研究組織 | 5人 | | |
| 所属機関・部局・職 | 北海道大学大学院・薬学研究科・教授 | | 所属機関所在地 | 札幌市 | | |
| 研究課題名 | 脳神経細胞の生死制御機構解明：新規因子発見と脳変性疾患モデル作出 | | | | | |
| 研究の概要等 | <p>高齢化社会において老人性疾患とくにアルツハイマー病，パーキンソン病ならびに，脳血管性痴呆症などの脳変性疾患患者の多発が危惧されている．しかしながら，これら疾患の発症機序の詳細に関し不明な点が多く残されており，診断・予防・治療の面からも早急な解明が求められている．これらの疾患におけるニューロン死誘発機序には新規蛋白質などの未知シグナルの関与が推定される．そこでこれら脳疾患の発症，とくにニューロンの生死制御とその破綻に関わる新規因子の単離・同定，これら因子の関与の細胞・分子機構，さらにこれら因子を移入/欠失した病態モデル動物，細胞を作出することにより，脳変性疾患を診断，予防，治療することを目指した研究を展開する．このために具体的には，ニューロンのアポトーシス惹起機構，ならびにニューロンと密接に相互作用するグリア細胞のアポトーシス惹起機構を解明するのみでなく，ニューロン・グリア細胞相関の観点から分子シャペロン，ニューロトロフィン，サイトカイン，細胞接着関連分子はもとより，これら以外の新規因子のニューロン死，グリア細胞死への関与などの機構を解明する．</p> | | | | | |
| 当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ） | <p>Ko, H. S., Uehara, T. and Nomura, Y., Role of ubiquilin associated with protein-disulfide isomerase in the endoplasmic reticulum in stress-induced apoptotic cell death. J. Biol. Chem. 277 (38), 35386-35392 (2002).</p> <p>Kaneko, M., Ishiguro, M., Niinuma, Y., Uesugi, M. and Nomura, Y., Human HRD1 protects against ER stress-induced apoptosis through ER-associated degradation. FEBS Lett. 532, 147-152 (2002).</p> | | | | | |
| 研究期間 | 平成15年度～18年度（4年間） | | | | | |
| 研究経費 （16年度以降は内約額） | 平成15年度 千円 25,000 | 平成16年度 千円 21,300 | 平成17年度 千円 21,300 | 平成18年度 千円 18,700 | 平成19年度 千円 | 合計 千円 86,300 |
| ホームページアドレス | http://www.hokudai.ac.jp/pharma/shoukai/yakuri.html | | | | | |